

## 量の見込みと確保方策の検討にかかる 委員意見 と 対応 について

### ○アンケート調査結果の活用について

項目	内容	対応
アンケート結果の活用について	市独自の子育て支援に関するアンケート調査、単純集計表では子育て世代のニーズの多様化が浮き彫りになっている。 教育、保育事業を選ぶ際に重視すること、仕事と子育ての両立に必要なこと、子育てに関する悩みなど深刻で多様になっているためこれに対するサービスもできる限り細かく多様性を持つべきである。	アンケートの回答結果から子育て世代のニーズを把握し、計画の策定に活用するとともに、子育て支援に関する事業の充実やPRなどに役立てていきます。
自由記述の活用について	自由記述のなかに、多くのニーズや現状が挙げられていた。内容も多岐にわたっているが、今後の検討の中で反映させていけるようにしていくべきことがたくさんあった。	自由記述欄については全ての内容を確認した上で、内容ごとに分類・要約いたしました。 統計処理では捉えられない保護者の希望やご意見が多くありましたので今後の議論に活用し、計画策定に役立てていきます。
自由記述の活用について	自由記述の回答については典型的に整理する必要があると思います。「自由」であるだけに、考え方は多様で、難しい作業であると思いますが、市民の意識、ニーズの傾向をとらえるためにも不可欠な作業です。生の貴重な意見は尊重したい。	同上

### ○区域設定について

項目	内容	対応
教育・保育	アンケート調査に加え、保育所・幼稚園等への聞き取り調査も必要と考える。 特に、アンケート調査では回答のない家庭、子育て支援が必要とされる家庭の実態把握のためには、現場の生の声を聞かない。踏み込んだ内容の聞き取りシートで、現実を把握し、現実に即した区域の設定を。	子ども・子育て会議には各子育て支援事業の従事者・保護者に参画していただいていますので、それぞれの状況を共有していただければと考えています。
教育・保育	教育・保育の提供区域を中学校区とすること	ご意見のとおり、2号・3号認定(保育所・認定こども園)について、区域を中学校区としています。 1号認定(幼稚園・認定こども園)については、私立幼稚園において通園バスが市域を超えて運行されており、中学校区ごとの区域設定はなじまないとの考えから全市域を区域としています。
教育・保育	市が、区域ごとに事業者を把握する仕組みづくりが必要と思われる。 また、区域を小学校区に設定することが望ましいと思いますが、少なくとも中学校区までに設定するのがいいのではないかと思います。	認可保育所・地域保育園・認可外保育施設など、子育て支援に関する事業者の所在等については市で把握しています。 区域の設定については、2・3号認定(保育所・認定こども園)については中学校区とし、利用希望の把握、及び確保方策の検討を行います。
教育・保育	区域を設定した中で需要と供給のバランスについて。市全体として需要供給のバランスがうまくとれているかということの方が大事ではないかと思います。川西市に添った方向で考えていただかないと。	市内の保育施設の立地状況としては、川西中学校区に集積しており、自宅近くで利用したいという保護者のニーズに対応できていない地域があります。 このことから、一定の生活圏域とみることのできる中学校区を区域とし、利用希望の把握、及び確保方策の検討をしています。
教育・保育	区域指定をしていくことが求められているが、現在から推定できる中で目標値を設定し、その目標が達成できた後、需要が減ってきた場合、保育所の数が減らされていくことにはならないか？(公立保育所の閉所という事態が起きないか)	人口推計においては、就学前児童数は減少傾向にある一方で、現実の保育を必要とする家庭の割合は増加傾向にあり、当面は定員の減少などの必要性はないものと考えています。 また今後、子ども・子育て会議において、市立幼稚園・保育所のあり方について審議していただくこととしており、耐震・老朽化対策とともに、市全体として適正な配置について検討を進めることとなります。
子育て支援拠点	地域子育て支援事業の提供区域については、前回の会議でも中学校区が望ましいのでは、という意見があったが、利用者のより身近なところにある環境を作っていくうえで、中学校区での検討がいいと思う。	ご意見のとおり、地域子育て支援拠点事業について、自宅近くにあることが望ましいことから、中学校区を提供区域としています。

## ○量の見込みの算出について

項目	内容	対応
量の見込みの算出について	アンケート調査の結果をできる限り反映させて、川西市の現状にマッチした算出をしていただきたいです。	国の示す手順に従い、アンケート調査結果を基に算出しています。 この内、実態と大きくかい離するものについては、より実態に則した数値となるよう、必要な範囲内で補整を行います。
量の見込みの算出について	今までの子ども・子育て会議でもアンケートの中で、しんどい家庭の人たちの声がなかなか出にくいという話があがっている。量の見込みを出す元の材料として、例えば幼稚園や小学校などに聞き取りなどをすることはどうか。	計画の策定においては、アンケートに基づいて定量的な利用希望を把握し、これに対応する事業の提供体制の確保方を記載します。 幼稚園や小学校からの聞き取りを基に定量的な分析を行うことは困難であることから、それぞれの実態と量の見込みとのギャップについては委員からのご意見も頂ければと考えています。
量の見込みの算出について	放課後児童対策の充実について、現在の放課後児童クラブの数字だけでない実態を調査する必要があるのではないのでしょうか？現在利用している保護者からの聞き取りなどがあればいいと思います。 学童保育と全児童を対象とした事業の違いを明確にした提供体制の確保を考える必要があります。学童のニーズと子ども教室のニーズを混同しないようにしてください。	アンケート調査を基にした利用希望は現在の利用実態などとの比較では概ね適度な数値となっていると考えています。 ただし、高学年の利用については実態との比較ができないことから、平成27年度以降の利用実態を踏まえ、受入れ体制の拡大を検討します。 また、放課後子ども教室との関係については、国において一体化・連携を推進する方針が出されており、それぞれの対象や役割を踏まえた上で、放課後における児童の健全育成にとってふさわしいあり方の検討が必要になります。
量の見込みの算出について	子育て支援事業(アップル)の利用率について、アンケートではあまり高くない数字になっていたが、実際の利用率からすると少ないように思う。就学前児童数の約半数以下のうちの50パーセントの回収率という中で、課題全般について、アンケート結果がどれくらい信頼性を持てるのかを改めて感じた。	基本的に教育・保育・地域子育て支援事業の利用希望の把握においては、アンケート調査によることとされています。 この中で、より確かなニーズを把握するためにアンケートの配布数を当初予定より増やした3,000通とし実施しました。
量の見込みの算出について	数値上の保育需要数を全国および近隣市(阪神間の各都市)の数値と比較し、修正を行うこと。	阪神間各市との情報交換は日常的に行っており、量の見込みの算出にかかる、補整の方法などの検討を行ってきました。 検討により、実態とのかい離が大きい0歳児の保育ニーズについて育児休業中のサンプルを除いて算出を行いました。

## ○教育・保育の提供体制

項目	内容	対応
市立幼稚園	市立幼稚園の対応について。 ① 地域毎の保育需要予測調査に基づき、保育所施設及び私立幼稚園の預かり保育の実施状況を考慮した上、保育需要よりも定数が少ない地域については市立幼稚園で3歳児保育を実施し、幼稚園型認定こども園として急増する保育需要の受け皿とすること。 ② その際、空き教室のある幼稚園は施設改善を行い、0歳～2歳の保育所を併設する幼保連携型認定こども園とすること。	市立幼稚園・保育所のあり方について審議いただく中で、耐震・老朽化対策に取り組むとともに、市立の施設として保育需要への対応や、地域の子育てニーズへの対応の方策についても検討をしていきたいと考えています。
市立幼稚園	公立幼稚園の定員割れで、空き教室が多くあります。現在は、3歳児保育をしている公立幼稚園は、加茂幼稚園のみですが、他にも実施する事を提案します。	同上
認定こども園	公私連携型幼保連携型認定こども園について 川西市が児童福祉法24条1項の保育実施責任を全うし、市内の保育・教育水準を自治体自ら維持発展させるため、公私連携型幼保連携型認定こども園の設置を行わないこと。	ご意見の内容については、将来的には市立幼稚園・保育所のあり方を審議する中でご意見をいただくことも必要であると考えます。

保育	<p>待機児童が生じた時の市の処置について。</p> <p>① 教育・保育提供地域内に待機児童が生じている場合のみ、地方裁量型認定こども園・地域型保育所(事業所内保育所を除く)を認定・認可すること。</p> <p>② この場合であっても、教育・保育提供区域の保育需要数に比べ、認可保育所及び認定こども園(地方裁量型を除く)の定数が不足している場合、第一義的に認可保育所の整備計画を策定すること。</p>	<p>計画には、各事業への利用希望に対する、提供体制の確保の方策を記載します。この際の、具体的な定員増の方法については、必要とされる数や、年齢構成などを考慮して、新制度の枠組みの中で最適な形態をとることを基本と考えています。</p> <p>また、今後児童人口の減少が見込まれる中、地域型保育事業の特徴を生かし、保育の提供体制全体のバランスや保護者ニーズも見据えつつ、適切な方策を取っていきたいと考えています。</p>
保育	<p>① 保育需要調査に基づき、要保育需要を満たすため、地域毎の保育所及び幼保連携型認定こども園の整備計画を行うこと。</p> <p>② 保育提供区域における保育所等の整備の目標と計画期間を明らかにし、目標を達成するために必要な保育所を整備する事業を行うこと。</p> <p>③ 安心こども基金など保育所施設の建設のための国の補助金の確保並びに市の単独補助を行うこと。</p>	<p>①② ご意見のとおり、国の方針に基づいて計画を策定します。</p> <p>③ 平成27年度以降の施設整備に係る補助金は、新制度においても継続される予定であり、これの活用を図るほか、市単独補助についても厳しい財政状況ではありますが、検討を行います。</p>
保育	<p>今後の提供体制の確保の方向性を見ていくと、保育所数の充足には民間の施設の誘致や、地域型保育といった方向が挙げられています。</p> <p>市の財政的にもやむを得ないこととは思いますが、子育てを支援していくことを市の責任として実施していく為にも公的な保育の保障は今以上縮小していかない方向を確認したい。</p>	<p>保育を必要とする家庭の割合は上昇傾向にあり、当面は定員の減少などの必要性はないものと考えています。</p> <p>また今後、子ども・子育て会議において、市立幼稚園・保育所のあり方について審議していただくこととしており、耐震・老朽化対策とともに、市全体として適正な配置について検討を進めることとなります。</p>
保育	<p>確保方策の中で、他の中学校区の施設を利用することで待機児童を解消するようになっていましたが、例えば緑台地区から清和台地区の保育園に入所させるのは無理があるかと思えます。</p> <p>また、緑台地区は子どもが少なくなっているので、あの資料をみると少し違和感を感じます。</p> <p>何としても各中学校区に施設を設置したいという考えもわからなくはないですが、もう少し現実的な方策を考えても良いのではないかという気がしました。</p>	<p>現状、保育の提供体制の不足する地域から他の地域への利用があること、既存施設の有効活用の面からも、隣接した中学校区の施設利用を一定数想定しています。</p> <p>また、自宅から近い教育・保育施設を利用したいというニーズや、保幼小の連携の面からも、現在認可保育所等の無い緑台中学校区への新設は必要であると考えています。同地域の就学前児童の人口の傾向として、年齢が上がるにつれて増加していることから、子育て世代の流入があるものと考えられ、新設により地域の子育て環境が充実し、さらなる流入増につながることも期待できると考えています。</p>
保育	<p>各区域(中学校別)における確保方策の中で最も注目したのは緑台中学校区における平成30年度から合計90人規模の受入れを見込んだ保育の提供体制の確保の案である。</p> <p>現存3幼稚園(平野、緑台、松風)の動向も見てとの回答であったが公的立場からの働きかけも必要だと考える。私立幼稚園も市との関係を強化し、公私のバランスを考慮しながら計画を進めていく必要がある。</p> <p>現状幼稚園は公立よりも私立に通園させる家庭が多く、私立10幼稚園との連携は不可欠。</p>	<p>新制度においては、幼稚園・保育所・認定こども園が一つの制度の枠組みとなり、市が実施主体となります。これにより、新制度へ移行する私立幼稚園については、従来県が所管してきましたが、市に移ることとなります。</p> <p>私立幼稚園が新制度の選択を検討する際に、相互の調整が必要であり、市としてもより良い関係性を構築できるよう、働きかけていきたいと考えています。</p>
保育	<p>アンケート調査により現状を把握したうえで、明峰中学校区、清和台中学校区、そして平成30年度の緑台中学校区の90人規模の保育確保案に期待している。</p> <p>具体的な進捗状況を提示することが、川西市子育て支援策のアピールになるので、できる限り公開して欲しい。</p>	<p>計画の具体的な進捗状況については、子ども・子育て会議で報告の上、ホームページ等で公開します。</p> <p>また、市の展開する子育て支援について、時期を合わせながら広報誌等でPRを行っていきたいと考えています。</p>

保育	<p>緑台中学校区に平成30年度から90人規模という計画について。同校区には保育に該当する施設がないですが、実態を考えますと緑台中学校区は高齢化が進んでいます。子育て世代である30・40代が望んでいることは自宅のある地域や勤務先に近いところということなので、実際に足りない中学校区か便利のいい川西能勢口あたりに新設か、認定こども園で幼稚園に保育施設を増やすと考えた方が合っているのではと思います。</p>	<p>計画の策定においては、区域ごとのニーズへの事業の提供体制の確保方を記載することになります。</p> <p>それぞれの区域において、提供体制の不足分は様々であり、これに合わせた適切な定員規模の保育施設の設置を検討することとなります。</p> <p>同地域への新設により地域の子育て環境が充実し、流入増につながることも期待できると考えています。</p> <p>また、新設にあたっては、現存する資源の有効活用を念頭に置き、検討を行います。</p>
保育	<p>確保方策は、安易な小規模保育事業ではなく、認可保育園の増設を最優先に考えていただきたい。小規模保育事業は、A型のみとし、保育の担保を図ってほしい。</p>	<p>計画の策定においては、区域ごとのニーズへの事業の提供体制の確保方を記載することになります。</p> <p>それぞれの区域において、提供体制の不足分は様々であり、これに合わせた適切な定員規模の保育施設の設置を検討することとなります。</p>
保育	<p>先日、西宮市において、小規模保育施設における幼児死亡事故が起こるとい痛ましいニュースが報じられました。待機児童ゼロにという施策は焦ってはならないという警鐘のように感じられました。子どもの安全、健康を第一に、着実に進めなければと思います。</p>	<p>新制度は、幼児期の教育・保育の量の拡大や質の向上をひとつの目的としています。</p> <p>市としても安全・安心な保育の提供が最重要事項であるとの認識のもとに、待機児童の解消に努めていきます。</p>
地域型保育	<p>中央地区には大型の認可保育園が増え、需要が満たされつつあるように思われるが、利用者のあらゆるニーズに応えていくためには、小さな保育園の存在も必要ではないか。こういった地域にこそ小規模保育園をしっかりと確保していただきたい。</p>	<p>計画の策定においては、区域ごとのニーズへの事業の提供体制の確保方を記載することになります。</p> <p>川西中学校区においては、ニーズを満たす提供体制が既に確保されており、近隣中学校区からの利用を見込んでいる状況となっています。</p> <p>基本的に提供体制に不足がある区域に、新設等の方策を記載するものであることから、計画上、新たな保育所の設置を見込むことは想定できません。</p>
地域型保育	<p>数字によって待機児童をゼロにしていこうということ以外にも漏れが出てこないかなという気がします。大きな保育園も必要ですが、小回りの利く保育園も必要ではないかと思えます。小さいからできる、こういう保育園も確保しておくことで川西市民のニーズにお答えできるのではないかと思います。</p>	<p>計画の策定においては、区域ごとのニーズへの事業の提供体制の確保方を記載することになります。</p> <p>それぞれの区域において、ニーズと提供体制の差は様々であり、これに合わせた適切な定員規模の保育施設の設置を検討することとなります。</p> <p>この検討においては、20人未満の定員である地域型保育による設置も必要であると考えており、また地域保育園についても保育の受け皿としての役割を担っていることから確保方策として挙げています。</p>
地域保育園	<p>地域保育園の中でも手を挙げる施設については認可を進めてゆくと市の側からの答弁がございましたが、そうではなく、何としても認可に導く努力をしていただきたいと思えます。</p> <p>それでもし、施設側が地域保育園のままで良いという考えであった場合でも、確保方策の中に入っている以上、最低限度、利用者側には認可保育園との利用料金の差額を補助する等の措置を検討していただきたく思います。(猪名川町が実施されていたような方法が良いかと思います)</p>	<p>それぞれの地域保育園に、認可への意向や現状等をお聞きしてきましたが、各園の考え方は様々であり、認可を望んでいない施設もあるという状況です。</p> <p>新制度においては認可外保育施設からの転換が従来より行いやすい地域型保育が新設されており、まずは計画上必要とされる地域への設置を検討していきたいと考えています。</p> <p>また、地域保育園への助成内容については、保育の受け皿としての役割を担っていることから、充実を含めて引き続き検討します。</p>
他市町協議	<p>資料4で見ますと、東谷中学校区は、他の校区と比べて、広域であるので、猪名川町と調整を急ぎ、距離的な配慮を早めに行っていく必要があると思いました。</p>	<p>実態としても、猪名川町の保育所・認定こども園の利用があり、確保方策としても猪名川町の施設利用を見込んでいます。猪名川町で策定される同計画との整合性を保つ必要性があることから、十分な協議を行います。</p>

## ○地域子育て支援事業

項目	内容	対応
利用者支援	アンケートの調査結果から見ても、まず自宅から距離が近くなるような配慮は必要ですが、地域的に保育所数に格差があることは明らかでありましたので、その部分をフォローするために、例えば、保育所独自の教育・保育方針や保育時間などに関する、きめ細やかな情報提供は欠かせないように感じました。	新制度の開始によって、地域型保育の導入や子育て支援事業の充実などにより、的確な情報提供を実施する必要性が増すことから、平成27年度から利用者支援事業の実施を検討し、より利用者のニーズに沿った的確な案内ができる体制を取ることができるよう進めます。
病児・病後児保育事業	今回の病後児保育については病児保育ではなく、病後児保育が実施されると聞いております。今後は病児保育の予定はあるのでしょうか？	現在、病児保育を実施するという具体的な予定はありません。 今後、平成26年度から開始した病後児保育事業の利用実績や、病児保育事業への利用希望などを考慮しながら、実施に向けた検討が必要だと考えています。
放課後児童健全育成事業	小学校の学童保育について。時間も延長にはなりましたが、その時間帯でお迎えに行けない保護者は5時での集団下校をさせ、留守番をさせています。学童についてもっと市が考えていただけるとありがたいです。	ご意見をいただいた開所時間については、年間通じての課題となる延長育成の終了時間や開所する8時30分についても課題と考えており、いずれの対応についても、指導員の確保や学校との調整等が必要となりますが、今後検討を進めていくべきものと考えています。
放課後児童健全育成事業	保育所、幼稚園の時は安心だが小学校に上がって、留守家庭児童育成クラブは授業のない日は8:30の開所であると保護者が非常に困っているという話をよく聞きます。この開所時間について、他市では早朝ということで7時からやっているところもあるようです。フルタイムで働いていると8時でも大変時間は厳しい。4、5、6年生に広げていただくのもいいが、開所時間は何とかならないものか。	同上
地域子育て支援拠点事業について	子育て支援拠点事業は、育児相談を平日にできるということが前提であり、出張プレイルームはあくまでも補助的なものなので、それがあから新設を後回しにしていることにはならないと思います。 逆に中学校区ごとにあるということは大事ですが、他の中学校区においては1万人以上の量の見込みがあるのに1か所しかないというアンバランスが出てきますので、このあたりもう少し検討が必要ではないかと思いますがいかがでしょうか。	出張プレイルームの実施においても一定の子育て支援の機能を有していることから、補助的ではありますが確保方策として記載しています。 当事業の確保方策の考え方としては、まずは未開設となっている各中学校区に開設することを優先としています。 量の見込みと設置個所数のバランスについては、今後の利用状況を見ながら適切な配置について検討を行います。
地域子育て支援拠点事業	公立保育所が、各地域の子育て支援の核になることを提案します。 現在ある「子育てひろば」や幼稚園や民間保育園等で行われている子育て支援活動などの地域のコーディネーターの役割ができるといいのではないかと思います。 (中略) 家庭で育てている子どもたちも、支援が必要だと思われる子どもが多くなっています。公立保育所が核になれば、地域の中の支援が必要な家庭、子どもを把握し、早期に支援ができます。	子育て支援に関係する事業が相互連携することは重要なこととあり、推進するべきことと考えています。 今回の計画策定においては、まずは各中学校区に地域子育て支援拠点事業を設置し、身近な地域で子育て相談等ができる体制をつくることとしています。 ご提案については、市立幼稚園と保育所のあり方についての議論と関連し、具体的な連携内容や体制については子ども子育て会議においても検討が必要であると考えています。
地域子育て支援拠点事業	家庭で育てる子どもたちへの適切な遊び場の提供や、他の子どもたちとの触れ合いが子どもの育ちからみてたいへん重要であると思います。 私の印象ではありますが、一時預かりで来園する子どもたちや地域支援で来園する子どもたちをみていますと、発達の支援が必要とされる子どもが多いように感じます。また、保護者はそのような子どもの育てにくさを感じ、心的なストレスを感じ、不適切な子どもへのかかわりをしてしまう例が多いように思います。 身近に子育ての相談ができるような場所や、相談者が市内に多く存在する事が求められます。	身近な地域での子育て相談等の体制を充実させるため、まずは各中学校区に地域子育て支援拠点を設置することとしています。

<p>地域子育て支援拠点事業について</p>	<p>緑台、清和台の地域子育て支援拠点の整備が急がれるのはデータを見ても明らかですが、今年、必要な地域よりも事業が集積している中央部にさらに開設されることへの疑問があります。</p> <p>アステは駅近くで人が集まってきますし便利なので、開設そのものはよいかと思いますが、最優先はまったく子育て支援の拠点的ない地域に整備すべきなのではないでしょうか。</p> <p>中央部は保育園数も多く、保育園での子育て支援活動も盛んに行われています。それに比べ、緑台、清和台地域は、保育園数も少ないのが実態です。</p> <p>小さな子どもを連れての移動は大変であり、住居近辺でいつでも利用できる子育て支援の拠点の整備を早急にしなければいけないのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見を受けまして、地域子育て支援拠点の整備については、平成28年度に明峰中学校区、平成29年度に清和台中学校区、平成30年度に緑台中学校区への整備を優先して実施するよう、事業の確保方策として計画に記載しています。</p>
<p>子育て短期支援事業(ショートステイ)</p>	<p>調査結果報告書(追加調査)の問18(14ページ)「仕事と子育てを両立する上で大変だと感じることは何ですか」という質問に対する回答をみると、「自分が病気・ケガをした時や子どもが急に病気になった時、代わりに面倒を見る人がいない」への回答者が就学前児童で78.6%と圧倒的に多いので、市の重点事業として、例えば、ショートステイの充実などを検討されたらどうかと感じました。</p>	<p>現在、ショートステイ事業は近隣市町の施設を活用し利用希望に対応しています。一方で、市内で事業を実施できる適当な施設を整備する目途は立っていない状況です。</p> <p>また、子どもの病気への対応は、今年度から実施している病後児保育事業の利用状況や、今後の病児保育事業への利用希望について考慮しながら検討をする必要があると考えています。</p>
<p>留守家庭児童育成クラブについて</p>	<p>留守家庭児童育成クラブの拡充については、保育園の待機児童問題と同じく大きな課題であり、早期に解決策を考えていかなければならない。しかし、現在のクラブの内容のあり方についてはこれまでもあまり議論されてこなかった。</p> <p>大勢の子ども達がただ何となくワイワイガヤガヤと放課後の時間を過ごしていると聞いたこともあるが、実際はどうか。</p> <p>民間活力の活用は大賛成だが、そうなればなおさら安全面や内容などについてもっと議論すべきだと思う。落ち着いて充実した時間を過ごすためには、詰め込むだけではないと思う。</p>	<p>計画の策定において、増加・多様化するニーズへの対応についても大きな課題と考えており、新制度の基準に対応し、定員の拡充をすることとしています。</p> <p>育成の質の確保については、各クラブの指導員への研修や、必要に応じた加配などを行っています。</p> <p>民間活力の活用については、平成27年度以降の高学年の利用状況を含め全体の利用希望者の推移を見ながらの検討が必要になります。</p>
<p>乳児家庭全戸訪問事業</p>	<p>川西市において、三歳児健診未受診者には、保健センターと主任児童委員が連携し、民生員・児童委員の協力を得て、個別訪問を行っている。個人情報保護法との関連もあるので、この実績を活かして、同様の態勢で訪問できなかった家庭をフォローするという手段もある。会えない家庭こそ援助が必要であるので看過はできない。</p>	<p>ご指摘の通り、面会ができていない家庭こそリスクを抱えているものと認識しており、関連する取組の連携によりフォローを行っているところです。</p> <p>この課題については、一層の注力が必要と考えており、継続的に取り組み内容の検証、見直しを図る必要があります。</p>
<p>乳児家庭全戸訪問事業について</p>	<p>乳幼児健診を受けていない家庭の調査をしているところかと思いますが、今後の体制が従来と同様の2人の保育士でカバーできるのかというところです。</p> <p>そのあたりで要保護児童対策地域協議会や民生委員児童委員と連携を取るだけで、十分にできるのかということが不安です。今後も2人体制ということですが、実態調査ができないところでそれでいいのか、また別の対策を取らなければならないのかについて市として検討された方がいいのではないのでしょうか。</p>	<p>同上</p>
<p>乳児家庭全戸訪問事業について</p>	<p>児童手当や乳幼児医療などと連携させて、これで接点を持たなければ手当などを受けられないという形にすれば、連絡も帰ってくるかと思えます。すべての家庭を訪問してということであれば、そういう対策も入れておいていいのではないかと思います。</p>	<p>同上</p>